

GAKUIN CAMPUS LETTER

学院キャンパスだより 13

Contents

看護学科開学

光星学院高校校長に就任して

八戸大学

地域ブランド形成による活性化を考えるシンポジウム

八戸大学

人間健康学部第一期生卒業

光星学院高校専攻科

2級自動車整備士国家試験

光星学院高校

第81回選抜高等学校野球大会をふりかえって

野辺地西高校

卒業演奏会開催



八戸大学・八戸短期大学入学式



平成21年度八戸大学・八戸短期大学の入学式が4月6日八戸市公会堂で挙行された。今年度は新たに八戸短期大学に設置された看護学科一回生69名含む大学短大合計で304名の新入生を美保野キャンパスに迎えた。

式典に先立ち短大幼児保育学科2年生によるピアノ演奏と合唱「いざやおとめご」が披露。式典では大学・短大を代表して蛇口浩敬八戸短大学長が「地域全体をキャンパスとして大いに活躍して欲しい」と式辞を述べた。

同短大附属幼稚園の園児6人と大学・短大の在学生が歓迎の言葉を述べ、特に附属幼稚園の園児が「お兄さん、お姉さん、お勉強をがんばってください」「いつでも幼稚園に遊びに来て

ください」などと元気よく話すと、それまで緊張感が漂っていた会場の雰囲気は一転、新入生らはほほ笑み、温かい拍手を送っていた。

新入生を代表して看護学科の大友朋佳さんが「大学生、短大生としての自覚を持ち、自分の夢に向かってまい進する」と宣誓した。



看護学科 開学

八戸短期大学看護学科の学生は、4月6日に入学式翌日の7日、8日の2日間、学生生活や授業時間割、科目履修、奨学金の説明、健康診断、交通安全講習会などのオリエンテーションを受講した。その後、看護実践能力を養う看護実習のため、上衣（半袖）、パンツ、カーディガン（長袖）、シューズ、エプロン等のユニフォームの採寸などを行い、講義の受講や実習の準備を整えた。翌日の4月9日より授業が開始され、看護師に向けての大学生活がスタートした。



短大宿泊研修



4月17日～18日（1泊2日）に、十和田市の奥入瀬溪流ホテルにて、新入生宿泊研修が行われた。この合宿は今年で3年目となり、新入生相互ならびに教職員・リーダー学生（20名）との親睦を図るとともに、学生生活及び学修の方向付けを身につけることを目的としている。

1日目は学科ごとの活動（幼児保育学科は各教科の学習ポイント、ライフデザイン学科は資格取得に関する説明、看護学科はグループに分か

れて自己紹介）やエンカウンター、街中活性化ワークショップ、学生会歓迎セレモニーが行われた。エンカウンターでは、外崎学長補佐の指導のもと、ジャンケン列車やアイスブレイキング、人間知恵の輪など7種類を実施。他者と協力し合い自分を表現することで、より深いコミュニケーションを築けたようである。街中活性化ワークショップでは、八戸市役所中心市街地活性化推進室の方々を招き、八戸市の新たな交流の拠点として三日町に誕生する「（仮称）八戸市中心市街地地域観光交流施設」についての役割や機能、各フロアの詳細説明の後、①「私ならこう使う hpm（八戸ポータルミュージアム）」②「hpm（街）に「これ」があったら足を運びたい」という2つのテーマで、グループごとに討議を

行った。「子を持つ親同士の交流の場として使いたい」「ケーキバイキングの店や洋服屋をつくってほしい」「八戸の旬の情報を知ることができる施設があれば便利」など、数多くの意見が出された。これらの若者の意見が反映され、市街地の活性化に繋がればと思う。

2日目は学歌指導と流し踊り実技指導が行われた。特に流し踊りは、八戸市七夕祭りの初日に行われ、昨年度から本学も参加している。今年は3学科体制になったこともあり、より鮮やかな踊りを市民の方々に披露することになる。

2日間のプログラムを無事に終えた新入生は、今まで以上に大きな希望を抱き、新たな仲間と共に充実した短大生活を送っていくであろう。



光星学院高校校長に就任して



光星学院高校から、法人本部に異動になったのが10年前でした。今回の異動で、再び古巣の光星学院高校に戻る形になりました。改めて、教育の現場に立つという意味を考えさせられました。

4月3日金曜日は、職員会議でした。懐かしい顔ぶれを前にして、学校の考え方、校長としての考え方を言わせてもらいました。生徒の育成にあたっては、まず私たち教員が手本ということをお願いしました。明るく活き活きとした学校作

りには、教員の実践が一番大事です。さらに、生徒との関わりを大切にすることもお願いしました。一人ひとりの生徒を大切にするという本校の考え方を、何回も言ったつもりです。そして、生徒たちが光星学院高校に入学したことに感謝と誇りを持てたら、我々の任務も100%達成できたと言えると思います。

- 1、子供に親しまれ
- 2、親に敬われ
- 3、同僚に愛され
- 4、校長に信ぜられよ

これは、我が恩師小原國芳先生の教師訓ですが、校長の任に就くに当たって使わせていただきました。

4月6日月曜日は、始業式でした。生徒はみんなちゃんと整列してくれていました。きちんと並んだ生徒を前に、もっともっといい学校にしましょうと言いました。いい学校作りには、先生の参加も不可欠とアピールしました。いい学校になれば、生徒みんなの未来が明るく幸せ

なものになると思うからです。そして、その準備をサポートし方向づけるのが先生であると考えています。なんとと言っても、先生が手本を示すのが一番です。

すでに、昨年度末から光星学院高校の運営に関わっています。3月24日の離任式、4月3日の歓送迎会、そして、6日の新任式に臨みました。この時、異動になった教職員の皆さんに接することができました。いよいよ光星高校を離れる教職員の皆さんが、在職中に深い思いをもって教育にあたっていたということに触れ、改めて感謝の念を持ちました。また、新任の先生方は、ステージの上で元気に意欲を示していただき、頼もしく感じています。

改めて、異動になった教職員の皆さんには、ご苦労様と申し上げます。また、私を含めた新任を、これからよろしくお願い申し上げます。

光星学院高等学校
校長 法 官 新 一

光星学院初の女性スクールバスドライバー

今年度、光星学院に初の女性スクールバス運転手が誕生した。

西舘歩さん、昭和59年9月8日東京生まれ。

もともと車の運転が好きで、子供の頃から大型車の運転手に憧れ、その頃より車の運転に関わる仕事に就きたいと願っていた西舘さんは、大型免許を取得後、荷物の搬送の仕事を経て、4月から光星学院グループ企業の(株)学園サービスに勤

務。業務班に配属され、生徒、園児の送迎のためのスクールバス運転手を努めている。送迎業務を担当しての実感は、思っていた以上に大学、短大、幼稚園などがあって大きかったと笑顔で話す西舘さん、スクールバスを運転するにあたり、生徒を安全に送迎するために一層気持を引き締めていると話していた。西舘さんはスクールバス路線の階上線と附属幼稚園の送迎を担当のほか、附属幼稚園の

給食の配膳などの仕事もこなしている。



寄贈図書と看護学科開設準備図書について

図書館で購入する図書や雑誌の殆どは、大学・短大の先生方から要望・推薦のあったものを図書選定委員会において審議し決定していますが、それ以外にも、多くの個人や企業、組織や団体から寄贈されるものがあります。

本館では、大口寄贈として、一個人から約20,000冊の寄贈を受けたこともあります。平成20年度は、元八戸短期大学教授で、光星学院理事でもある富田真先生

より1,334冊の図書をご寄贈いただきました。その主な分野は、ジャズや将棋に関するもの、歴史、城郭や日本庭園に関するもの、大河ドラマのシナリオや小説等となっています。その他にも平成20年度は個人や団体から約370冊の図書を寄贈していただきました。

また、平成21年4月の短大看護学科開設にむけて、看護学及び関連分野の専門図書を受け入れるため、書庫の整理や開

架閲覧室の図書の移動、新規受入図書の目録データベースの作成や図書の装備等、色々な準備を進めてきました。

看護学科のために準備した図書は和書3,000冊、洋書150冊（うち40冊はNet Libraryによるe-Book）、AV資料は42点となっています。雑誌については、和雑誌が42誌、洋雑誌は12誌で、うち10誌は電子ジャーナルとなっています。e-Bookとe-Journalは、4月27日からは、図書館に来なくても、美保野キャンパス内であれば、いつでも、どこからでも学内LANで図書館にアクセスして閲覧することができるようになっています。

地域ブランド形成による活性化を考えるシンポジウム



教育・研究・社会貢献後援会と総合研究所による「地域ブランドによる活性化を考えるシンポジウム」が、2月26日八戸第2ワシントンホテルで開催された。

地域ブランドによる活性化が叫ばれる中、八戸市でも「八戸前沖サバ」のブランド化が進められている。今回

のシンポジウムでは、地域ブランドに関し先進的な取り組みをしている(財)オホーツク地域振興機構の厚谷郁夫理事長が「広域エリアにおける地域ブランドの形成について」ーオホーツクブランドの取り組みを事例にーと題し講演した。

終了後は、八戸前沖サバブランド推進協議会の島守賢会長、青森県三八地域県民局の堀内芳男局長、東奥日報八戸支社の秋元宏宣記者によるディスカッションが行われた。

起業家養成講座プレセミナー

「10年で100人の起業家を青森から」をテーマに、第2回起業家養成講座プレセミナーが、3月4日東奥はちのへホールで開催された。プレセミナーでは「リゾート再生への挑戦」と題し、(株)星野リゾートの星野佳路社長が講演、講演終了後は星野社長と本学の太谷真樹客員教授、丹羽浩正ビジネス学部長が「事業革新と起業人材の育て方」をテーマに鼎談を行った。

(株)星野リゾートは、リゾート運営の達人を目指す歴史のある若々しい企業集団で、近年躍目すべき成果を次々と挙げ、注目されている。また、古牧温泉をはじ

め経営が傾いた大型施設を引き受け、独自のマーケティングと顧客満足向上等により次々と「リゾート再生」に取り組んでいる。

講演で星野社長は、「地方には家業の後継者が多い。こうした人たちが家業を再構築し事業を手掛けることで地域は活性化する」と語った。

なお、第1回の起業家養成講座は4月25日から開始される。



(財)八戸地域高度技術振興センターと総合研究所の共催事業である「経営ビジネ

スセミナー」が3月10日市内オフィスで開催された。セミナーは、経営の革新・業務改善や新規事業の展開などに取り組もうとする経営者、管理職等を対象に実施しているもので、今年度は9月に次いで2回目。

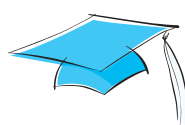
第2回

経営ビジネスセミナー

「職場における化学物質による中毒とその予防」をテーマに人間健康学部の吉田稔教授が、第2部では「市場認知度を高めるためのマーケティング戦略」をテーマにビジネス学部非常勤講師で(有)オフィスエスティ代表取締役の堤静子先生が講演、32名が受講した。

講座は2部構成で行われ、第1部では「職場における化学物質による中毒とその予防」をテーマに人間健康学部の吉田稔教授が、第2部では「市場認知度を高めるためのマーケティング戦略」をテーマにビジネス学部非常勤講師で(有)オフィスエスティ代表取締役の堤静子先生が講演、32名が受講した。

八戸大学・八戸短期大学学位記授与式

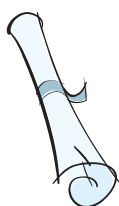


平成20年度の学位記授与式が3月18日八戸市公会堂で挙行された。大学・短大の学位記授与式を公会堂で行うのは初めて。また、人間健康学部一回生も学舎を巣立った。

式典では、各学部学科の代表者4名に大学の鈴木学長、短大の蛇口学長が学位記を授与。その後卒業生が在籍する学部・学科長から全員に学位記が授与された。

大学・短大を代表して鈴木宏一八戸大学長が「未曾有の経済危機が続いているが、人類はこれまでも知恵を結集して危機を脱してきた。堂々と生き抜き、社会人として立派な人生を送ってほしい」と式辞を述べた。

理事長挨拶、八戸市長のあいさつに続き、八戸大の卒業生を代表して人間健康学部の岩淵健良さんが「明るい未来の開拓者として、社会に貢献していきたい」と力強く謝辞を述べ、卒業生全員で学歌を斉唱した。



学位記授与式 人間健康学部第一期生卒業

3月18日、人間健康学部の第一期生に学位記が授与された。

2005年4月に開学した人間健康学部は、生活の質の向上を目的として、健全な「こころ」と「からだ」の基礎知識から専門知識に至るまで医学・体育・心理・栄養・看護・福祉などを、あらゆる角度から探求し、人間の健康を幅広い分野で研究・指導・ケアができる人材の育成、そして、健康ビジネスの担い手の育成にも努めてきた。

その人間健康学部の一期生たちが、学び研究してきたことを活かし、教員やスポーツ関連、医療・福祉関連、食品関連などの会社に内定し、この厳しい状況の中、就職内定率91%を達成した。この人

間健康学部を卒業したことにより、今後の健康をテーマとした分野での卒業生の活躍に期待したい。



大学・短大外郭3団体合同による懇談会が、1月31日八戸プラザホテルで開催された。懇談会は、外郭3団体（後援会・同窓会・父母の会）役員に対し、大学・短大の状況を報告することと、3団体役員の懇親を深めることを目的に毎年実施されている。懇談会では、3団体を代表して山田政信八戸大学後援会会長が

挨拶、続いて蛇口浩敬大学・短大運営会議議長、鈴木宏一八戸大学学長から大学・短大の近況報告を行った。

佐々木正雄短大後援会長の発声で乾杯が行われ、出席した約70名の役員は終始和やかに懇談した。



特

別

講

義



水の汚染と人間の生態学

1月23日(金)八戸大学人間健康学部「人間環境論（2年次）」の講義で、講師に東京大学大学院医学研究科 渡辺知保教授をお招きし、特別講義が行われた。テーマは人間の健康に大きな影響を与えている環境、中でも水の量と水の質に関する



「水の汚染と人間の生態学」であった。本講義の内容は、飲料水のヒ素汚染の問題を取り上げられ、調査結果も交えた講義であった。ヒ素による汚染の問題は、アジア・中南米の開発途上国を中心に世界

各地に見られ、中でもバングラデシュは危険人口が数千万人に及ぶとされ、被害は深刻である。バングラデシュでは元来使用していた表層水が細菌学的に汚染されるようになり、消化器系の感染症が猛威をふるったため、国際機関の先導で1970年代から井戸の敷設が進められた。地下水は細菌学的汚染を受けにくいため感染症は激減したが、土壤に含まれて



いたヒ素による地下水の汚染が起こり、多くの住民の健康を損なうことになった。講義では1990年代の終盤に実施した実態調査の方法が紹介され、典型的な毒性症状である皮膚障害について、男性が女性より感受性が高いことを示し、これが代謝と関連している可能性が示唆された。難しい講義内容であったが、学生は興味深く聞いていた。

最近の食品汚染問題について



1月23日(金)八戸大学人間健康学部「生活環境論（3年次）」の講義で、講師に愛知学院大学・薬学部 佐藤雅彦教授をお招きし、特別講義が行われた。食生活は、生きていく上での必須条件であり、ヒトの健康の維持・増進あるいは疾病予防にも深く関係している。したがって、

食品は私たちの身体にとって健康に良いものであり、同時に安全でなくてはならない。テーマは「最近の食品汚染問題について」で、最近、数多く報道されている事故米やメタミドホスやメラミン汚染食品などに加えて栄養素としての必須微量元素に関する

内容であった。食品中の必須微量元素は、最近、摂取が偏食により不足しているヒトが増えている現状や有害金属であるカドミウムやメチル水銀は、それぞれ米や魚類などの食品を介してわずかながら生涯にわたって人

体に取り込まれることやその安全性について紹介された。本講義は、私たちの健康に係わる身近な食品問題に関する興味ある内容であった。



スポーツ健康科学研究会 公開セミナー



光星学院スポーツ・健康科学研究会（八大・八短大のスポーツ運動系の先生方がコアメンバー）による公開セミナー

が、1月30日総合研究所市内オフィスで開催された。

スポーツ・健康科学研究会では月例で研究会を開催しているが、今回のセミナーは八戸大学人間健康学部が大学としては東北で初めてJATI（日本トレーニング指導者協会）トレーニング指導者養成校になった事を受け、スポーツにかかわる方々にJATIの存在を理解していただき、指導等のスキルアップにつなげることを目的として実施した。

セミナーでは「オリンピック選手へのコンディショニングサポート」と題し、アスリートのサポート活動が続けている



田村尚之氏が講演、体育教員やスポーツ指導者など約40名が聴講した。

3月18日(水)学位記授与式終了後、市内ホテルにて行われた卒業パーティーは、学生会を中心とした卒業生で構成される卒業パーティー実行委員会が主催するパーティーです。私は今回初めてこのパーティーに参加しましたが、卒業する学友会の4年生の先輩方にはとてもお世話になり、その4年生とのお別れということもあり複雑な気持ちで参加しました。パーティーが始まり、乾杯が終わると4

卒業パーティー

年生の方々は教職員の方々との最後の親睦を深めていました。会場内は余興やビンゴ大会などで盛り上がり、最後に学友会の前執行委員長の滝沢透さんが挨拶をし、卒業パーティーを終了しました。

私たち学友会は、昨年1年間活動をしてきましたが、まだまだ分からない点が多々あります。これからは、4年生の先輩がおりませんが、学友会執行委員長として



先輩方のように秋桜祭など様々なイベントを成功させ、八戸大学をより盛り上げる事の出来るよう、卒業していく先輩方に学んだ事を活かして頑張っていきたいです。

学友会執行委員長 米塚 泰佑

クラブ・サークル課外活動報告会・懇親パーティー

2月3日(水)大学会館2F大講義室にて行われた課外活動報告会では、各クラ



ブ・サークルの代表者から今年度一年間を通して活動してきた内容と結果報告がなされ、来年度に向けた目標も発表された。今年度は新たに加わったクラブ・サークルなどもあることから、今後更なる活躍が期待でき、八戸大学を盛り上げてくれそうだ。

また、活動報告会終了後、会場を市内プラザホテルに移して行われた懇親パーティーでは、各クラブ・サークルからの様々な余興や学友会主催のビンゴ大会などで絶えず笑いが飛び交い、学生・教職員が共に交流を深めた。



F Dワークショップ

「学生の講義への参加意欲の向上と指導の方法ー講義の受講態度についてー」

2月5日「学生の講義への参加意欲の向上と指導の方法ー講義の受講態度についてー」というテーマで全教員参加のグループ討論によるF Dワークショップを実施した。F Dとはファカルティ・ディベロップメントの略であり、個々の教員の主として教育内容や教授法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みの



総称である。

大学設置基準第25条の3において「大学は、当該大学の授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」としてF D活動が法的に義務化され各大学は、教育の質の向上に向けてF D活動を活発に行うようになった。

八戸大学では、学生による授業評価などのF D活動は、教務委員会の活動として従来実践してきたが、20年度から新しい組織としてF D委員会を設けF D活動を重視する体制をスタートさせた。今回のワークショップは、F D委員会の活動の一貫として実施した。今回のテーマは講義の場における学生の学習参加態度に関する問題点の認識、原因、指導方法など

について討論した。各グループは5、6名構成で約2時間弱の討論を行った後各グループの発表が行われた。

このようなグループ討論は今回初めてということもあって、「学生の講義へ参加態度の問題点」という比較的共通的関心が得やすい課題を設定したので各グループともに活発な情報交換を行うことができた。

今回のワークショップの意義は、1つは、問題を洗い出すことができたことと、もう一つは、1つの課題に対して自由に意見を主張し合うという数少ない機会を持てたことである。今後大学のさまざまな課題に対しても情報の共有、問題点の洗い出し、衆知を集める等の手段としてグループ討論は活用できるという実感をえた。

今回のワークショップの成果は次年度のF D活用を生かすことができると考えている。

学生支援に関わる活動について

障がいのある児童への支援を希望する学生を小学校等に派遣し、担任の先生とともに児童を支援することを目的とした学生支援員制度が、昨年度から本県で行われることになった。

これは、平成20年度文部科学省の「発達障がい等支援・特別支援教育総合推進事業」のひとつで、青森県教育委員会が委嘱を受け学生支援員の募集、派遣を実施しているものである。昨年度八戸大学からは、将来教員を目指している人間健康学部3、4年生10名が参加し、5月12日には派遣事業に係る学生支援員研修会が行われた。研修を終えた学生たちは、

5月下旬から学生支援員として八戸市内にある6校の小学校にそれぞれ出向き、3月上旬まで障がいを持つ児童とふれ合い、理解しながら学習支援や介助の仕方について学んだ。また、派遣期間中の2月13日には、県ならびに市教育委員会の担当者と派遣先である学校の担当教員、本学の学生を含む担当者が一堂に会し運営協議会を開催し、これまでの活動状況やその成果などについて意見交換をしながら、残りの期間の活動について確認をした。なお、同制度は平成21年度も実施される。



「八戸大学」OB&OG訪問 part13



株式会社ジーアイテック
代表取締役
青池 俊司 さん

プロフィール

八戸大学卒。卒業後市内の民間企業に就職。その後何度か転職をし、35歳のときに現在の会社である株式会社ジーアイテックを設立、代表取締役をつとめて現在3年目となる。

Q：学生時代の思い出を教えてください。

A：4年生のときにサンフランシスコの大学に福田弥夫教授と海外研修に行った事です。ダウンタウンで夫婦喧嘩に巻き込まれたり、英語がわからなくて日本語で押し通したり、今でもいい思い出ですね。

Q：ここまでたどり着くまでに苦労したことはありますか？

A：一生懸命やっているとときは苦労していることに気づかずに夢中でやっているので、苦労を感じたことは無いですね。終わった後に「苦労してたなあ」と感じることはあります。ただ夢中でやっている時には、そういうのは感じたことがないです。

Q：仕事をやるうえで目指していること、

また気をつけていることはありますか？

A：採用や仕事などを通して青森を、最終的には東北全体を活性化させていくという事が目標ですね。また、仕事の仲間には上司や同僚の顔を伺って発言を控えるのは絶対にするなど言っています。会社のためにも、個人のためにもならないので。

Q：最後に在学生へのメッセージをどうぞ。

A：若くて羨ましいですね！そんな皆さんにこの言葉を贈ります。「なりたいたいものになれ、なりやすいものになるな」。失敗した、という言葉は諦めた、という言葉と同じです。自分達の次の世代に、自信を持って「俺はこれだけの事をした」と言えるような大学生活にしてください。

平成21年度 入学式

平成21年度入学式が4月10日(金)八戸大学会館において挙行された。スーツ姿の凛々しい新入生たち、自動車科23名、介護福祉科9名が法官新一校長より入学を許可された。続いて、新入生を代表して自動車科の西村慎太郎さん(光星高校卒)が「それぞれの分野で人間性を高め、ス



ペシャリストとして社会に貢献できる人材になる努力をする」と宣誓した。式では法官新一校長が「皆さんの知識、技術の向上のために教職員一丸となって協力します」と激励し、中村覺理事長は「自己の目標に向かって、努力を怠ることなく突き進むことを期待します」と祝辞を述べられた。

新入生はこれから自動車整備士、介護



福祉士になるために2年間各専門教科を学び、技術を身につけていく。

2級自動車整備士国家試験



3月22日(日)自動車科の最終目標、『自動車整備技能登録試験』が光星学院高等学校において行われました。一般の受験者と共に平成20年度専攻科自動車科の修了生33名が、「2級ガソリン自動車」「2級ジーゼル自動車」の

2科目の試験に臨みました。

2年間の学習の成果を出す試験であると同時に、整備士には絶対に必要な資格とあって、全員真剣な表情で試験に取り組んでいました。試験後の控え室では、自己採点をしながら一喜一憂する姿が多く見られました。

4月7日に合格発表があり、33名中、32名の合格者を出すことができました。

平成20年度 修了証書授与式



平成20年度の専攻科修了証書授与式が、3月13日(金)10時より美保野キャンパス八戸大学会館において挙行された。自動車科34回生33名、介護福祉科16回生23名が、2年間の様々な思いを胸に式に臨んだ。

式では修了生一人一人の名字が呼ばれ、代表者に杉山近副校長より修了証書が手渡された。その後、中村覺理事長より祝辞が述べられ授与式を終了した。

午後からは八戸プラザホテルで祝賀会が行われ、修了生と父母・教職員が和やかに2年間の思い出話やエピソードなどを語り合っていた。



第81回選抜高等学校野球大会をふりかえって

第81回全国選抜高等学校野球大会が3月21日から甲子園球場で開催された。本校にとっては3年ぶり4回目の出場であったが、過去3回の選抜では、いずれも初戦敗退だったので、何とかその壁を破り初戦突破を目標にかかげ選手と共にチーム強化に励みました。「自律と自立」この言葉をチームの方針に掲げ、厳しさが、規律が守られ、チームワークを重んじながら、個々がもつ能力、個性、自主性を発揮できるチームを目指し日々



の練習に取り組んだ。今まで自律の部分ばかりを選手達に指導してきたこともあり、我々指導者にとっても進化しなくてはならない部分も多々あり、時には選手達が勘違いをし自立と自由をはき違え、わがままになってしまったり、良い部分であった徹底力が欠けてしまうこともありましたが、幾度となく監督が選手達にミーティングで話をして大会を迎えると

きには理解をしてくれました。

抽選会で対戦校が愛媛県の今治西高校に決まった。今治西高校は3年連続で選抜大会に出場しており厳しい戦いが予想されましたが、案の定予想通りの展開になった。ほぼ互角の試合でしたが、結局9回サヨナラ負けという結果に終わり、初戦突破という目標を達成することができませんでした。敗因を考えると、色々たくさんありましたが、まだまだ鍛えきれてなかったのと、何より、理解してくれていたと思っていた、「自律と自立」がまだ完全に選手達に身についていなかったように思う。甲子園というところは、夢の大舞台であり、非常に厳しいところなんだと改めて実感させられました。何とかもう一度鍛え直し、



上辺だけでなく心の底からチーム全員が「自律と自立」を実践し夏の甲子園でこの悔しさを晴らしたいと思います。また、今大会で、寄付活動等でお世話になった方々に恩返しができるよう頑張っていきたいと思っています。ご協力、ご支援本当にありがとうございました。



光星学院高校

入学式より

新校舎完成から、2度目の入学式が4月7日に行われた。新しい光星学院高等学校を担うべき新入生にとって、この高



校はどのように見えたであろうか。

いま入学にあたり、新入生それぞれの事情もあると思うが、このように考えてもらいたい。皆、同じスタートラインに立ったばかりであると。今までの生活はすでに中学校卒業でひと区切りついたはずであり、もう過去の事である。これからは自分の将来を考えながら、高校生活を送ってもらいたい。

号砲がなってしまうと、後は早くても遅くても、ゴールをめざし走るだけであ



る。過去を振り返るのではなく、未来を見てほしい。新入生の皆さんの未来が幸多いことを期待する。

卒業証書授与式

平成20年度光星学院高等学校卒業証書授与式が3月1日(日)に本校体育館で行われた。

今年度は普通科第51回 110名、ビジネス科第3回 20名、工業技術科第10回 65名、保育福祉科第10回 98名、合計293名の卒業生が三年間過ごした学舎を巣立って

いった。

式典は卒業証書授与・各賞状授与が行われ、最後に卒業生を代表して普通科島守翔吾くんより「感謝の心を忘れずに、光星の誇りを持って頑張っていきます。」という答辞が述べられた。

今年度の卒業生は本校創立50周年の節目を経験し、新旧両方の校舎での学校生

活を送りました。3年間で目まぐるしい環境の変化の中で過ごした学校生活は、一生忘れられない思い出として深く心に刻み込まれたと思います。

卒業後の進路はひとりひとり違いますが、母校の誇りを胸にこれからの人生を自分の力で切り開いてほしいと思います。

第3回定期演奏会開催

2月22日に本校体育館にて第3回演奏会を開催した。体育館の音響も素晴らしく無事に第3回定期演奏会を終わらせる



事ができた。

今回も本校での開催ということで生徒達は演奏技術だけでなく舞台セッティングや演奏会に関わることを全て自分たちで作り上げていき、準備の大切さや必要さなど多くの事を学んだと思います。今回の経験が今後の色々な活動に生かされればと思っています。

演奏会の内容は2部形式で、第1部は「喜びの音楽を奏でて!」と吹奏楽コンクールの課題曲だった「風の舞い」を演奏した。第2部は毎年恒例の他では聴けない、光星オリジナルにアレンジした「オレンジレンジメドレー」や、

昨年大ヒットした「羞恥心」・「悲壮感」をメドレーにした「水曜バラエティー・メドレー」、2部の最後を飾るのは毎年こちらも恒例になった「オーメンズ・オブ・ラブ」を演奏し大変喜んでいただいた。

演奏はまだ未熟な面も多々ありましたが、短期間で準備し、演奏会を成功させた生徒たちはとてもよく頑張りました。今年度はソロコンテストで東北大会にも出場することができました。音楽大学に進学した部員もいます。今後はさらに腕を磨き、夏のコンクールに向けて全力で頑張りたいと思います。また、開催にあたり各方面の方々よりたくさんのご支援、ご声援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

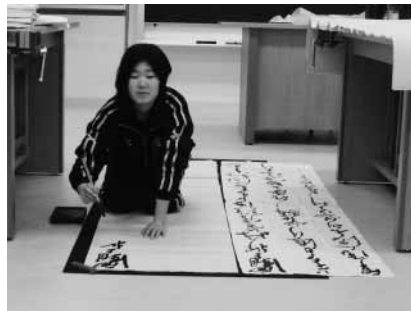
第33回全国高等学校総合文化祭(三重大会)書道部門 青森県代表(77年度目)決定

平成21年7月29日(水)から8月2日(日)まで三重県津市の三重県総合文化センター三重県文化会館ギャラリーを主会場に開催される。全国高総文祭に青森県代表としてビジネス科3年の武部麻美さんの参加が決定した。

昨年11月全国大会の出場を決める審査会が行われ、見事2年連続で出場権を獲得した。武部さんは現在出品作品の制作に毎日取り組んでいる。

出品予定作品は、8尺×2尺(縦241センチ×横61センチ)で岑参の詩「懷州の吾別駕

を送る」を行草体縦3行の連綿を駆使した技法で創作した作品である。



平成20年度の主な成績 (県大会以上)

【第2回連盟賞】 武部麻美

【第32回全高総文祭文化連盟賞】

武部麻美

【第13回全日本高校大学生書道展】

書道展賞 福岡怜奈

優秀賞 武部麻美・奈良佳織

河村瑛美・水野歩実

【第29回青森県高総文祭書道部門】

優秀賞 武部麻美

優良賞 奈良佳織

第28回全国高等学校空手道選抜大会が3月24日から26日まで東京体育館を会場として行われた。競技種目は「形」「組手」それぞれ「個人」「団体」があり、本校からは「男子個人形」に笹森悠太選手が「男子形団体形」に笹森悠太選手・松山祐太郎選手・磯部翔平選手が出場した。「形」の部での全国大会出場は数年ぶりであった。選抜大会出場決定後、選手達はこの大会の出場種目の練習に励んできた。過去に思わぬミスで出場を逃したこ

全国高校空手道 選抜大会 男子個人 男子団体出場

とがあったことから「男子団体形」は特に念入りに練習に励み試合に臨んだ。「個人形」に出場した笹森選手一回戦の対戦相手は伝統校の九州地区代表の興南高校であった。演武形燕飛は、特にミスも無く、まずまずの出来であった。審判員の旗が一斉に上がった。緊張の一瞬。2-3残念ながら一回戦突破は出来なかった。団体戦の一回



戦は開催県である東京都の日本大学鶴ヶ岡高校であった。演武形燕飛は、特にミスも無く普段の練習の成果を出すことが出来た。審判の旗は一斉に上がった。0-5残念ながら全国のレベルが高く目標の一回戦突破は出来なかった。今後は強化合宿、練習試合を多く取り入れ春季大会・高総体優勝を目指して頑張るつもりである。



全国選抜大会を 振り返って

3月27日～29日、第52回全国高等学校レスリング選抜大会が新潟県で開催された。新チームは、人数が少なく戦力も近年の中で一番厳しい状況であった。県内通過すら難しい状況からスタートしたが、何とか県予選を優勝、東北選抜大会では3位入賞し、全国へと駒を進めた。全国までの道のりの中で徐々に自信も生まれ、意識も高まりはじめた。

全国選抜大会団体戦初日。選手の中には、大舞台を経験するのが初めての者もいる。浮き足立つ選手の心を静め、集中力を切らさず平常心で戦うことに専念させた。

1回戦、2回戦を順調に勝ち上がり、3回戦では、55kg江良友輝選手が流れを



つくり、74kg級石井将太選手が勝負を決め、接戦をものにし準々決勝進出。相手校は、優勝候補の茨城代表霞ヶ浦高校。過去に何度も対戦しているが、いまだ越えられぬ壁である。『霞ヶ浦高校とはいえ、勝機は必ずある！負けることを恐れず、

全力で戦おう！』選手ひとり一人に呼びかけた。試合開始から20分、あまりに早い決着に肩を落とした。対戦スコアは、0-7と大敗した。全力で戦い、何度も勝機がありながらも、1つの勝ち星も挙げられなかったことが悔やまれる。強い精神力、シンプルではあるが精度の高い技術、勝負に対する緻密さが差となって現れた内容であった。

全国に出たとはいえ、チームの力は本物ではない。精神面、体力面共にレベルアップをはかり、インターハイでは雪辱を果たす。完膚無きまでやられた悔しさを忘れず、めざすは『打倒！霞ヶ浦高校』

大会 結果

団体戦 ベスト8

1回戦 対	紀北工業高校	(和歌山県 近畿代表)	○6	—	1
2回戦 対	北海道札幌北高校	(北海道 北海道代表)	○	不戦勝	
3回戦 対	鹿島学園高校	(茨城県 関東代表)	○4	—	3
準々決勝 対	霞ヶ浦高校	(茨城県 関東代表)	●0	—	7

個人戦 2名出場

55kg級	江良友輝	3回戦敗退
84kg級	村田貴雅	2回戦敗退

新たな旅立ち!

平成21年度入学式挙行



春とはいえ、まだ肌寒い4月8日(水)、本校体育館において120名の新入生を迎えて平成21年度入学式が挙行された。入学者数は前年度とほぼ同数であった。(前年度入学者118名)。

系列ごとの入学者は、産業技術系列の工業系が27名、オートメカニクス系が13名、人間福祉系列が36名、教養進学系列が44名の内訳であった。

入学式において、学校長は「学ぶ姿勢」や「目標を持つこと」

などを訓示し、新たなスタートについた新入生の前途を祝福した。

理事長から激励の訓示、野辺地町町長から励ましの言葉を頂き、新入生の諸君は期待と不安・緊張の表情で真剣に話を聞いていた。

新入生を代表して相内駿君(千歳中学校出身)が、校則を守り、良き生徒として努力することを誓って式は終了した。

尚、例年4クラスの編成のところ、5クラスの編成となった所が今年の特徴である。教養進学系列が2クラスとなっている。

スキー教室の一日

このほど、本校恒例のスキー教室が「まかど温泉スキー場」で2月19日(木)に開催された。好天に恵まれ、絶好のコンディションの中、1・2年生対象のスキー・スノーボードの講習(午前)およびフリー滑走(午後)が行われた。

開講式で青山教頭から「世間では、雪国出身者はスキーを滑れる事が当然であると思われるので本校の名誉のためにも頑張ってください」と激励を受けて講習が開始された。生徒は技術レベルに応じて初心者、初級者、中級者、上級者の各グループに分かれて、まかどスキー

スクールのインストラクター(講師)の技術指導を受けた。基本の徹底と技術向上を目標として半日講習を行なったが、専門のインストラクターの指導の下、参加者は楽しく技術講習に汗を流していた。

参加した生徒の感想は「短時間のうちに上達した気がする」とか「あと1回くらいスキー教室があればいいのに」など充実した講習だったことをうかがわせるものだった。



卒業演奏会、開催



2月3日(火)に、「人間福祉系列3年による卒業演奏会」が開催された。この行事は本校人間福祉系列の恒例のもので、音楽レッスンの授業における3年間の成

果を発表するものである。

34名の3年生全員が自分の好きな曲を一曲ずつ選び、担当の先生方、人間福祉系列の1・2年生の前で演奏する形式である。曲目はショパンなどのクラシックからJ・

ポップやアニメの曲までと広範囲にわたるものであった。

演奏を終えた生徒の感想は「緊張してうまく弾けなかったけど、頑張ることが

大切だと学びました」、「こんなに緊張する機会はまだ二度とないんじゃないかと思いました」、「3年間、ピアノで苦労したけど、頑張ってたかったなあ。感謝の一言です」など、とても貴重な経験をした一日だったと振り返っている。

決してうまく弾けた演奏ではなかったと演奏した3年生は感想を述べているが、一生懸命さの伝わる演奏に、聴き手の方も好印象を持って最後まで演奏会を楽しんでいた。

八戸短期大学附属幼稚園

子育て支援でつながる輪と和



当園は平成19年4月の開園以来、「あたたかくやさしい幼稚園」を合言葉に職員一同、基盤構築に邁進してまいりました。子どもや保護者、地域の方々、幼稚園を取り囲むすべての方々に、このように思っただけいたら有難いと思って日常の保育に取り組んでいるところです。

その一環としての事業に「預り保育」と「星の子キッズクラブ」(未就園児教室)があります。「預り保育」は平常時午前7:30から午後7:00まで、「星の子キッズクラブ」は原則月3回(水、土曜日)、午前中に開催しています。

「預り保育」は働くお母さんにも対応して、家族のお迎えあるまで、異年齢の子ども達を常時60名位預かっています。新幼稚園要

領に則り、計画的な活動を展開しているところです。また、「星の子キッズクラブ」は主に2歳から3歳の子ども達がお母さんと一緒に来園して、活動を楽しんでいます。

このような事業を通して、子どもと保護者の方々、幼稚園がつながって、この

地域にあたかな輪と和がますます広がり、しっかりと根付いていくことを願っています。



聖アンナ幼稚園

静けさを好む子どもたち

子どもは騒がしいものという印象があり、静かなのは、眠っているときだけなのかと思っている大人も少なくないので



はないでしょうか。

しかし、幼稚園の子供達をみると ◎自分にぴったりした作業が見つかったと、周りが少し賑やかでも関係なく作業に没頭したり ◎絵本を読み始めると「しーっ」といわんばかりに一斉に静かになりじーっと見入ったり、◎椅子を持ち音をたてないようにそーっと重ねたり、◎音あてレッスンなどでは目を閉じて聞こえてくる様々な音に耳を傾け聞こうと集中します。 ◎また子どもたちは、線の上を歩くことを好み子供たちは、静かな音楽に合わせるようにゆっくりと歩き始めその表情は真剣そのものです。

大人が何度も“しずかにして”などと言っていないのに子どもたちが申し合わせたように静けさを作るのでということに驚かされます。

この時期の子どもにとって様々な興味



は自然なことであり、静けさもそのひとつです。それゆえ、かすかに呼ぶ教師の声にも耳を傾け敏感に反応し、実によく心を働かせているのだと気づかれます。まるでそうしたいという精神的喜びを味わっているかのようです。このことを大人は忘れてはいけないように感じています。子どもの奥底で、静寂を求める豊かな気持ちを日々の生活の中でも大切にしたいものです。

びわの幼稚園

卒園お別れ会

八戸短期大学附属びわの幼稚園で21年3月10日(火)午前10時からお別れ会が開催されました。

このお別れ会は、卒園し、4月小学生に進級する18名のお兄さん、お姉さんに、在園児からのこれまでの感謝と、小学校での活躍に期待しエールを送る会です。

お別れ会では、在園児が製作したトイレットペーパー芯を活用した鉛筆立てや、在園中に撮影した記念の写真を入れるメモリアルフォトフレームなど、それぞれ、工夫と真心がこもったプレゼントがお兄さん、お姉さんに「小学校でも頑張っ

てください」との一言が添えられ一人一人に手渡されておりました。

次に、先生方によるかくし芸の披露が始まり、ひげダンスをしながら登場する先生方の姿を見た園児からは、われんばかりの笑いと大きな声援に包まれ開場はとても盛り上がっていました。

先生方のかくし芸は、ひげダンスから始まり、夜遅くまで練習を重ねたというハンドベルミニコンサートへと、披露した曲は、「ミッキーマウスマーチ」、「きらきら星」、「星に願いを」の3曲で、園児



たちは聴きなれたピアノの音と違う音色に聴き入っていました。

そして最後に園長先生によるマジックショーが始まり、リング、紐、水を使ったマジックに園児たちは少し驚きをおぼえお別れ会が終了しました。

第二しなのめ幼稚園



絵は心のメッセージ



言葉も語彙も少ない幼児期に「その子の思い」を知りたい。「その子が伝えた心もち」を聞いてみたいとの思いがあり、当園では絵画と、工作の表現活動を大切に教育活動に取り組んでいます。

豊かな体験とは、体験の数以上に「体験の仕方・体験の質」が大切であると考えています。「感動」「驚き」「悲しみ」などの情動を伴う体験は子どもを成長させる力を持っています。ただ「おもしろかった」「楽しかった」ということや、教師から与えられた体験であれば、日常のありきたりな出来事で終わります。子ども達が何かを深く感じる体験をすることは心情に影響することと思います。幼稚園でしばらくの間チャボを飼育しまし



た。そのときの「ちゃぼとあそんだ」絵を紹介します。この絵はその形を写しとろうとしたのではなく自分たちが餌をあげ、水を取り替えながら育てているそのチャボを描きたいという願いから生まれた表現です。色や形を見ているだけでなく、親しみを感じている生き物への「命の大切さ」を表現しているのです。また、子ども達が種を蒔き、水をやり、毎日お世話をしていたらある夏の朝幼稚園に来ていっぱい咲いていたあさがおの花。その喜びと予期せぬ驚きを表現した絵もあります。体験の喜びをあらわした絵は、



じゃが芋や大根の種をまき、外遊びのときには必ず自分たちの畑の土を覗き込んでいるうち「そろそろ土の中を見てみようよ」と掘り起こしてみたら小さな種からこんなに大きくなったという喜びがじゃが芋をしっかりとつかんでいる手や長く伸びた腕、大きく描かれた大根の形に表れています。



大人の世界でも、趣味で何かしたりすると、人前で発表したり、展示したりすることに喜びを感じ自分を感じることが出来ます。子ども達にとっても、自分はこのにいるよ。自分の気持ちはこうだよ。自分の好きな人（たとえばお母さんお父さん、おじいちゃん、おばあちゃん先生等）に伝えたい思いがあるから、それを絵で伝えてくれているのです。

教師たちは子ども達が心を開放し、思いを表現できる環境を大事にしていきたいと考えています。

GAKUIN Human Relations

学院ヒューマンリレーションズ：光星学院につながる多方面で活躍している人たちのアドバイス・メッセージを紹介

向上心を培う 嬉しさがある



能登 のり子 さん
(有能登学習塾取締役)

1964年8月6日生
1987年3月八戸大学商学部卒
青森県立三沢高等学校出身
全珠連青森県支部委員
資格：教員免許（高等学校・商業科）
珠算教育士



能登のり子さんは、八戸大学商学部を卒業後、珠算塾に勤務、その後結婚。主婦業、そして二人のお子さん（高校生と中学生）の母親業をこなす傍ら、ご主人と【能登学習塾】を開塾し、その学習塾で主に珠算指導を担当している。

【能登学習塾】では、幼稚園児から小学生、中学生が多数通っていて、平成13年には全日本通信珠算競技大会4年生以下の部で全国一となったことをはじめ、東北大会で多数の優勝者を輩出、また、八戸地方珠算競技大会で初出場から13年連続団体優勝するなど、とても指導力に定評があり、塾がある白銀地区はもちろんのこと、下長や白山台など遠いところからの通塾者も多い。またこの塾から巣立った生徒たちは、教員や市役所・海上保安庁などの公務員の他、一部上場企業の会計ソフトの会社に就職するなど多方面で活躍している。

能登さんはこの珠算塾で指導していく中で特に嬉しいことは、指導に苦労した子どもが1級やそれ以上の段に合格できたときで、開塾当初は3級合格を目標にしていた子どもや保護者が多く見られたが、現在ではほとんどの人が1級ばかりでなく段の取得を目指すようになってきたことがとても良かったと思う。と話す。

子どもの数が減少している中、ここ数年前から東京や大阪などの大都市をはじめ、全国的にそろばん人口が増えてきているそうだ。

また能登さんはこの他にも、ご主人と共に八戸市内の小学校にボランティアとして出向き、「そろばんの授業」を展開している。今年から小学校3年生ばかりでなく4年生の教科書にも「そろばん」が載ったことにより、今後も需要が増えてきそうだと。

今後の目標は、そろばん学習の最大のメリットである「暗算力」を一人でも多くの子

もたちに身につけてもらうために、さらに指導法を研究するとともに、フラッシュ暗算の導入など、これからも新しいことに挑戦していきたいと話す。

また大学での勉強は社会に出てからの基礎となる重要なことばかり。後輩の皆さんも自分の夢の実現のために頑張ってもらいたいとメッセージを送ってくれた。

能登学習塾ホームページ

<http://notojuku.hp.infoseek.co.jp/>



GAKUIN Activity

学院アクティビティ：チャレンジ精神で積極的に活動しているクラス・ゼミ・クラブを紹介

インカレベスト8以上を目標に

八戸大学 アイスホッケー部



八戸大学アイスホッケー部は、昭和62年に愛好会として発足、翌63年に学友会の公式団体として正式に創部許可され、現在創部23年目を迎え、本学強化指定部

として活動している。最大の目標は、東北地区で活動する大学チーム記録タイのインカレベスト8以上である。

ここ数年はインカレ出場権を得ること

ができずにいるが、2年前から指導体制を新たにし、また昨年度からは日本トップリーグでのプレー経験を持つ、本学アイスホッケー部OBの方に、外部コーチとしての協力を頂いており、目標に向け再指導しているところだ。

今年度は、課題である体力と下半身の強化を重視するため、シーズンオフの期間となる4月～6月を中心に陸上トレーニングと筋力強化に力を注いでいる。7月からは、9月上旬に開始予定の公式戦に向け、基礎練習も交えつつ実践形式の練習へと以降していく予定である。

選手・スタッフ共に目標達成への意識が非常に高く、今後の活動に注目している。



ミニ・オペレッタ



2月22日(日)八戸市公会堂文化ホールにおいて、八戸短期大学幼児保育学科によるミニ・オペレッタ発表会が行われた。昨年より「はちのへ子どもフェスタ」の開催に併せて実施されたこの発表会には、小学生や幼稚園児の子ども達、そして一般の市民の方々など多くの人たちが鑑賞に訪れ、ステージ上で繰り広げられる幼児保育学科の学生の音楽表現に、観客席から歓声や温かい拍手が送られていた。



第13号表紙

八戸大学・八戸短期大学総合実習館

2009年4月に開学した八戸短期大学看護学科を中心とした学び舎となる。実習館前は学生たちがくつろぐ憩いの場として、コミュニティ広場になっている。このコミュニティ広場には桜の木が植えられ、4月になると桜が満開となり見応えがある。



学院キャンパスだより第13号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>